

2019年1月27日実施 2級FP技能検定試験（学科、実技：資産設計提案業務）について

<学科試験>

■出題傾向

全般的に過去の類似問題を中心としたオーソドックスな問題が多く、大きな変化はない。ただし、一部に過去の傾向と異なる問題が出題された。（問題28「アセットアロケーション等」など）

■問題のレベル

基礎知識を問うようなスタンダードな問題が目立ち、従来のレベルと比べると、やや易くなったという印象を受ける。

■特記事項

問題8「確定拠出年金の個人型年金の加入対象者」では、従来よりも細かいところまで問われているため難しい。

ただし、その他は総じて過去と同じ傾向の問題であったので、過去問題の傾向を分析し、これを踏まえて基本事項を確実に押さえていた受検生は、合格ラインに到達できたと思われる。

<実技試験>

■出題傾向

過去に出題された問題の類似問題が半数以上あり、オーソドックスな問題が多かった。『ライフプランニングと資金計画』を除くと『タックスプランニング』からの出題数が7問と最も多かった。

■問題のレベル

どの科目においても基本的な知識を問う問題が目立ち、従来のレベルと比べると、やや易くなったという印象を受ける。

■特記事項

『相続・事業承継』において頻出の「相続税の課税価格の合計額」よりも踏み込んだ「相続税の総額」を計算させる問題（問37）が出題された。問題の中に計算過程の記載があるため、インプットが正確でなくても正解に辿り着けただろうが、計算に時間がかかったと思われる。

<総括>

学科試験は、特に目立った特徴はなく、全体に解答しやすい問題が多かったと思われる。

実技試験は、問36から問38にかけて時間がかかる問題が連続しており難しく感じた受検生もいたかもしれないが、過去の類似問題も多かったため、学科試験と同様、解答

しやすい問題が多かったのではないだろうか。

今回の試験は、基本的な知識を習得した上で定番問題に対する準備ができていれば、学科試験、実技試験ともに6割以上の正解が見込める出題と思われる。

※このシートは、2019年1月27日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。